



ぽっかぽか 6月号

きりんぐみ

『食育』始めました

食育の活動が始まりました。第一弾は、グリーンピースとそら豆のさや剥き体験をしました。子ども達は興味津々で剥く前に匂いを嗅いだり、どのように実が入っているのか、何個入っている？何色かな？と観察をしました。「土の匂いする。」「白い所はフワフワで気持ちいいね。」といろいろ発見していました。最後はお当番さんが給食室に持って行き、昼食やおやつに出てくると喜んで食べていました。また、普段豆が苦手な子も「自分がむいた、そら豆美味しい！」と、体験を通して食べられようになる子もいました。第二弾は、きゅうりの苗植えです。年中さんは昨年育てたこともあり、興味津々！ベランダにプランターを置き、年中さんを中心に2人ずつ土と肥料を混ぜたり、種を蒔いたりしました。植えた次の日に「もうきゅうりできてる？」と言ったときにはびっくり！そんなすぐにはできませんが、子ども達はいつできるのかな？食べられるのかな？と毎日観察しています。水やりはお当番さんが主にしています。土が乾いている時にはたくさんあげることや、雨の日にはあげなくていいことなど、天気によって加減することなども大切な事だということも伝えています。今後は観察した野菜が出来上がっていく喜びを感じながら、より野菜が好きになってくれたらと思っています。

そらまめのさや剥き



声の大きさを考えよう～積み木編～

進級当初は「ごちそうさまでした！」「お茶ください！」と生活の中で必要以上に声が大きく、友達との関わりの中でも声大きい事から友達が怒っていると思い込みトラブルになる場面が見られていました。そこで、お集まりで「声のものさし」という表を見せながら、「0はお喋りしない」「1の大きさは隣の人に聞こえるくらい大きさ」と視覚で伝えたり実際に大人と一緒に声の大きさを出してもらいました。また、場面ごとで「今は寝ている時間だから0の声だよ」と場面ごとで大きさが違うことも伝えることで子ども達も意識して過ごせるようになっていきます。

やりとりの変化

以前→友達と積み木をする→タワーを作り始める→友達と積み方がズれて崩れたり、声大きい→友達が怒ってる？→話は聞きたくない→トラブルになってしまう→楽しくない。

現在→友達と積み木をする→みんなで何を作るのか話す→声の大きさが丁度よい→友達の話を聞いてみよう→みんなで同じ積み方にしよう！→みんなで作るから達成感を感じ合える→嬉しい、楽しい！という流れが少しずつできています。声の大きさが調節できるようになったことで、友達の話を聞いてみようかなという意識が生まれて、更に友達と作る楽しさを味わっているようなので、この経験を基にごっこ遊びでも、子ども達同士で話しあって相談して決めるという所までいけたらと思います。

カブトムシの幼虫の飼育

ホワイトボードでもお伝えしているように幼児組では、在園児から頂いたカブトムシの幼虫を飼育しています。きりん・そう組では土の入れ替え作業をみんなで観察した際には、近くで幼虫を初めてみて「こわい」「ほんとにカブトムシになるの？」と疑問に思う子もいました。また、観察する中で「何をたべるの？」「どこから出てくるの？」と興味から質問が沢山聞かれたので、図鑑を見せて今後の成長していく様子を伝えると楽しみにしていました。幼虫を飼うことで、他の生き物に興味をもったり命の大切さを学んでいけたらと思います。

